

#### 文献4

Kamali, Fahimeh; Sinaei, Ehsan; Morovati, Maryam. Comparison of upper trapezius and infraspinatus myofascial trigger point therapy by dry needling in overhead athletes with unilateral shoulder impingement syndrome. Journal of Sport Rehabilitation. 2019; 28: 243-249.

##### 1. 目的

肩関節痛の有訴者の痛みと障害に対する僧帽筋上部と棘下筋の鍼（ドライニードル）の有効性を比較する。

##### 2. 研究デザイン

ランダム化比較試験、シングルブラインド

##### 3. セッティング

スポーツ医学理学療法クリニック

##### 4. 参加者

18～60歳で片側性肩関節インピンジメント症候群のオーバーヘッドスポーツ選手40名

##### 5. 介入

Arm1 (UTグループ)：僧帽筋上部のトリガーポイントへの刺鍼を2日間隔で3回行う(21名)。

Arm2 (ISPグループ)：棘下筋のトリガーポイントへの刺鍼を2日間隔で3回行う(19名)。

##### 6. 主なアウトカム評価項目

痛みの強さ(10cmVAS)、僧帽筋上部の圧痛閾値、DASH (Disability of the Arm, Shoulder and Hand; 上肢障害評価表)、介入前と介入終了時に測定。

##### 7. 主な結果

1) 痛みの強さと上肢障害は、両方のグループで有意に減少した ( $P < 0.001$ )。

2) 圧痛閾値はISPグループでのみ有意に増加した ( $P = 0.02$ )。

3) 介入後の測定値はいずれも、グループ間で有意差はみられなかった ( $P > 0.05$ )。

##### 8. 結論

棘下筋のトリガーポイントへの刺鍼は、肩痛を有する選手の痛みと障害の改善において、僧帽筋上部のトリガーポイントへの刺鍼と同等の効果がある。そのため、有痛部位(僧帽筋上部)に刺鍼されることを好まない患者の場合は、棘下筋への刺鍼が、その代替として有用であるかもしれない。

##### 9. 論文中の安全性評価

記載なし

##### 10. Abstractor のコメント

肩関節インピンジメント症候群の選手を対象に刺鍼部位の違いによる効果を検討した研究である。いずれの治療部位(僧帽筋上部、棘下筋)でも有効性が認められているが、より質の高い研究にするために、コントロール群やプラセボ群を設定し、実施されると良いと考える。

##### 11. Abstractor and date

近藤 宏 2021.2.7